

地元企業の魅力を知って

豊橋創造大学の学生にPR

県東三河県庁は29日、豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットフォームで、豊橋創造大学経営学科3年生24人を対象に「東三河の魅力企業スタディープログラム」を開いた。東海日日新聞社事業部が運営した。

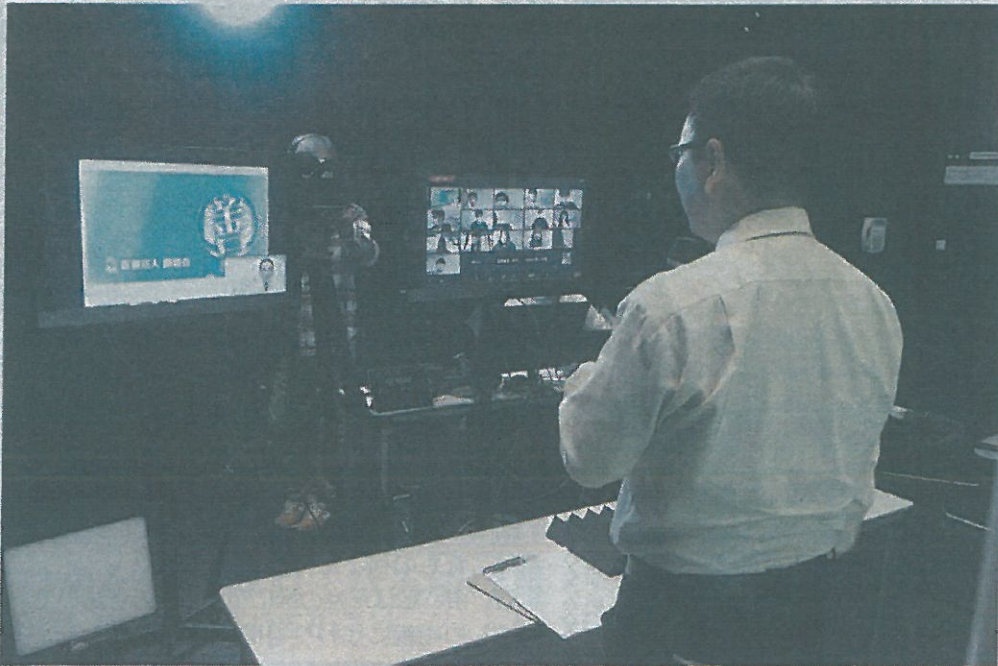
第1部は、大三紙業（豊橋市雲谷町）の松井孝悦（よし）社長（61）が、「これから就職をする君たちへ」と題した基調講演を行い、第2

部は、ワルツ、医療法人積善会、ミカワリコピー販売の3社が、オンラインで企業紹介を行った。松井社長は今後のビジネス環境は「人

材のコモディティ化（汎用品化）が進む」とし、「自らがスペシャルであるために、自分の競争優位性はどこかを明らかにし、自分の強み

を磨いているかが大事」と力を込めた。また、「就職は人生で最も重要な選択肢。安定とチャレンジ、定型的と創造的、大組織と少人数など自分の適性を見極め、自分自身で決めてほしい」と呼びかけた。

（原田ひとみ）



オンラインで参加の学生に、事業内容を説明する企業担当者（穂の国とよはし芸術劇場プラットフォーム）